

KOKONOE
FreePaper

2018.9
vol.09

BASARE

九重からこのえへ



ネイティブ KOKONOE

下旦祇園～伝統と継承～

モノと暮らす幸せ

内恵 克彦さん、麻生 夕子さん

穴井 昌博さん

むかしのおかし

井上 勝子さん、井上 美代子さん

松木 鈴子さん、仲摩 八千代さん

方言つかっち
はなきへばい！！

ネイティブ

KoKoNoE

こんへやは
なへんか
うどぐれへのへ

う・ど・ぐれ・



ば・
ちこくるぞ・



わ・
わがしちょくれ



む・ぞ・が・る



しかとんし・れん



あ・
い・た・



て・
が・て・



あ・ん・べ・が・わ・り・



ぎ・ゅ・う・ら・し・い



お・お・き・に・や・ん・た・



わからん方言があつたら家族んもんか、
近所んしに聞くといいばい！！
いくつわかるかたな？

方言マイスター
きよっさん



●の部分を強調して発音しましょう

いらんこつ



どくいうまゝ



ほたりうつする



うむろしゝ



今日は、
なへんか
うむろしたな～

だらしねゝ



どくでんこくでん



つくじまわる

てーげなこつ



びつしゃぐる



うそんじょう



きのどきゝ



どんこんならん



なーんちへ？



たまがつた!!



そげなこつ
したら
きのどきへ

標準語とはまた違う、絶妙なニュアンスで表現される
地域で生まれた大切なことば“方言”

九重に住んじよへんならせっかくやけん方言つかっち話そへばい！
つかゅうこつて。

下旦祇園 伝統と 継承

日田祇園の流れを汲む飾り山鉾（やまとばこ）が
特徴の町指定無形民俗文化財、下旦祇園。



昭和30年、一度火事で山車が焼失した時に途絶えていた祇園を昭和48年に復活させたのが仲摩茂敏さんだ。仲摩さんは下旦子ども離子で後進の育成も長年手掛けている。

下旦 子ども囃子

ぱやし

子ども囃子という言葉だけのイメージとは裏腹に、圧倒的な迫力の太鼓に軽妙な笛の音、鐘がアクセントを与えていく。その囃子は祭りそのものといつても過言ではない。実際、当日には山鉾の中に子ども達が乗り込み全力で音を奏で続ける。

子ども達は地域全体のお祭りの中でも、与えられた役割を全うしながら自信を培っていく。

印象に残ったのは子ども達と大人達との会話だ。

子どもは二つの物事に対しての意見を自分の視点からきちんと主張する。それに対して大人も真摯に向き合つ。良い意味での垣根のなさを感じた。

こうして地域の老若男女が半月以上の時間をかけて一日の祭りのための準備をじっくりと進めていく。

花の組み立てを下旦養心クラブ(集会所)で行うと聞いてお邪魔した日。部屋に入ると所狭しと吊るされた色鮮やかな花々が私たちを迎えてくれた。花の下では地域の老人会のメンバーの皆さんがあいあいと会話を交わしながら花を組み立っていく。

下旦祇園の魅力は誰もが関わりを持つことができるところにあると感じた。

隣保館の奥にある集会所で飾り山鉾の 人形や花などを作る。一言で作るといっても、たとえば花の茎やパイパイという白い飾りは竹を山へ切りに行き、手作業でひごべと切り出していく。花弁の一枚一枚もそうだ。専用の器具を使って色紙が本物以上に花びらへと形を変えていく。そのすべてに徹底的なまでに手間暇をかけている。たくさんの工程があるが、若手が手掛けた部品を老人会のメンバーが組み立てていくなど、分業体制も整っている。



飾り山鉾

やまぼこ



山鉾の巡航

「アド(宵宮)」「こう神社への参拝、「流れ曳き」という試運転を経て、祭りの当日を迎える。

7月14日、灼熱の夏の日、完成した山鉾はまるで一年前からその姿だったかのように観客たちを迎える。

祭りの当日だけを見ると、華やかな一面を知ることができる。
準備をしている一人一人の姿を知ると、人と人との繋がりを山鉾に感じることができる。

祭りの終わった翌日、総出で作った飾りは崩され、人々の災厄をのせて煙になつて空へと昇る。
そうして骨組みだけになつた山鉾はひとつりと来年の祇園の準備を待つ。
作り上げられ、壊される。その繰り返しの中で人々は世代を超えた繋がり深めながら暮らしている。



集めたモノに囲まれて気持ちがゆっくり満たされる
それがなんだか幸せで…
私たち、モノとの出会いを愉しんでいます



モノと暮らす幸せ

コレクター
Collector

レコード：内恵克彦さん

ミニチュア：麻生夕子さん

1970年代のモノ：宍井昌博さん

レコード Collector：内恵克彦さん

亡くなった妻は、普段この部屋に来ることはなかったんだけど、たまに友達を呼んで音楽を聴いてたみたいでね。
レコードのかけ方は教えていたからね。



A. オーディオ機器が好きな友人が周りにいて、自分は音楽を聞くことが好きで、それがきっかけで集めはじめました。特にJAZZと映画音楽が好きだね。

Q. いつから集めはじめました？



A. 20年前から集めはじめました。当時ダンボールに約100枚入って売っていたんだけど、中は選べなくてね、でもそれが帰ってからの楽しみだったんだよ。

Q. どのくらいの枚数ありますか？



A. 3,000枚くらいはあるかな～。ちゃんと数えたことはないからね。だいたいそのくらいかな(笑)

Q. 好きな場所はどこですか？



A. いちばんいい音で聴けるここが好きな場所です。(内恵さんの定位置)

Q. 好きなものと暮らす気持ちは？



A. 友達からもらったり、欲しいレコードを探しまわって手に入れたりと一つ一つに思い出があるからね、「最高！」だね。

Q. ゴールはありますか？



A. ゴールはないね、でもスピードは落とすけどね。

Q

集めはじめたきっかけは？



A. もともとは、犬張子が大好きで20代の頃お小遣いを貯めて買い求めていたんです。ミニチュアを集めだしたのは、子どもに買ってあげたお菓子に付いていた“じゃが犬くん”を見て、「かわいい！」って思ったのがきっかけですね。

20代の頃から集め続けている犬張子。九重にお嫁に来る時、この子たちも嫁いり道具として東京からやってきました(笑)



Q. どんな所で購入しますか？



A. 民芸品などは骨董市や蚤の市ですね。骨董市はモノとの出会いを感じられるので好きですね。ミニチュアはこつこつ集めたり、大人買いをしたり(笑)しています。

Q. 何点くらいありますか？



A. 数えたことがありませんね…数万点はあるかな(笑)

ゴールはありますか？

Q

ありますか？

Q. ご家族の反応は？



A. とても協力的です。なぜなら、主人も集めることが好きなので。ちなみに、キティちゃんコーナーは主人のコレクションです(笑)

Q. いちばんのお気に入りは？



A. ジミニーブリッケットというキャラクターが車に乗っているフィギュアです。吉祥寺のお店で偶然見つけて連れて帰りました(笑)



A. 出会いがある限りは集め続けます。終わりを決めちゃうと寂しいから。

ミニチュア(民芸品・犬張子) Collector：麻生夕子さん

幼稚園の頃、実家の近所にタイル屋さんがあって、その前を通るたびにきれいなタイルを拾って家に持って帰っていました。今思えば、その頃から集めることが好きだったかもしれません。

1970年代のモノCollector：穴井昌博さん

こんなの集めてどうするの？って言われることもありますが、ゴミとなって捨てられるモノも、僕にとっては宝物ですし、使えなくなっても魅力のかたまりなんです。

Q

集めはじめたきっかけは？



A.高校生の時（昭和62年）「ノスタルジック Heroes」というレトロ車などを特集した雑誌が発売されたんですが、その本がきっかけで集めるようになりました。ちなみに、創刊号は買いました。

いちばんのお気に入りは、HondaのバイクCB750と、日産のフェアレディZ240Zです。69年に発売され70年代にアメリカで大ヒットしたんですけど、この商品がmade in Japanの地位を確立したんじゃないかと僕は思っています！

Q
ゴールはありますか？



A.終わりなんてありませんよ（笑）ちなみに、家族は諦めています（笑）

Q.どのくらいの数ありますか？



A.ちゃんと数えたことはないのですが…バイクが100台以上、車は30台以上、その他は数万点あります、多分（笑）

Q.開封されてないモノがありますが？



A.今は購入しても、開封して整理する時間がなかなかとれなくて。なので、老後の楽しみにしています。

Q.いちばん遠い購入先は？



A.アメリカなどのガレージセールを行ったことがあります。普段は、コレクター仲間との情報交換で買い付けに行ったり部品交換をしています。

Q.楽しみ方を教えてください



A.集めたモノのデザインを眺めながら、当時の時代背景を想像するのが楽しいですね。デザインや機能に様々な特徴が出ていて、当時の頑張りや失敗などが伺えるんです。

むかしの

わけへしの口に
合うじゃうか!

井上勝子さん

幼い頃おばあちゃんやお母さんが
おやつに作ってくれていた
むかしのおかしを作ってもらいました

むかし

石垣もち

〈材料〉・さつまいも・小麦粉・塩・ベーキングパウダー(重曹)

- ① さつまいもを約1cm角に切り、少しの間水にさらす



皮は少し残した方が
色おいがいいんよね~

- ② 小麦粉500g・ベーキングパウダー(重曹)小さじ1、
塩少々、水をまぜて、しゃもじですくったらゆっくり
たれるぐらいにこねる



ほんとは
はしてませるんが
ませやーぱい

- ③ ①と②をまぜて蒸し器に入れて約30分
形はつくらずそのまま蒸す



- ④ さつまいもに火が通ったら
食べやすい大きさに切り、完成!!!

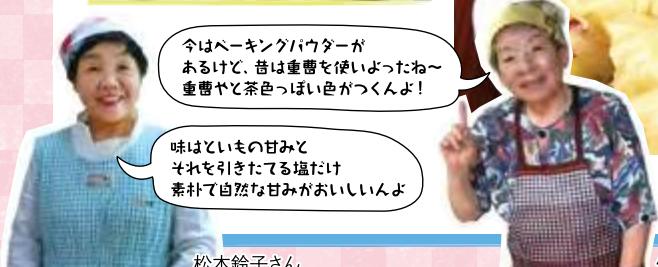


今はベーキングパウダーガ
あるけど、昔は重曹を使いよったね~
重曹やヒマツボイ色がくくんよ!

味はどうもの甘みと
それを引き立てる塩だけ
素朴で自然な甘みがおいしいよ

松木鈴子さん

昔式の切るスタイルでいただきます



仲摩八千代さん

ふきがし

fukigashi

〈材料〉・ふき・塩・砂糖

★ふきの下処理

- ① ふきをフライパンに入る長さに切り、まな板の上で塩を振り板ばりします



- ② フライパンにお湯を入れ、約5分茹でた後、冷水に入れ冷まして、皮を剥き完成
※一昼夜水にさらすと苦味がなくなってオススメ

★ふきがし

- ① 下処理をしたふきと砂糖を鍋に入れ、水分が無くなるまで煮つめます
※こげないように注意!!
火加減は強火→弱火



井上美代子さん



- ② ふきがカラカラと音をたてるようになったらOK
火を止め仕上げに砂糖をまぶして完成!!!



むかしのおかしを囲んでいたら
むかしのはなしに花が咲きました



イナコの佃煮や
食べたりしようつたねえ~
わけーいは
食べたことなかろうね

わいわい

わいわい

昔はといもんじょう
食べよつたねえ~
干したりもしてかうね…

おやつがといもやつたら
「またといも~?！」
つち言いよつたね

みんなが楽しみにしてくれると
作り甲斐があつて嬉しいなあ~

おやれも
よづくりよつたねえ~
1月におやれ用のもちも
一緒につきよつたんよ~

BASARE

九重からこのえへ

「九重からこのえへ、しあわせのおすそわけ」をテーマに、

ふだん着姿のたくさんのいいもの・いい人を町の人が発見し、まちの人へ伝えるフリーペーパーです。

*バサレとは、大分の方言で「たくさん」という意味です。

発行日：2018年9月30日 発行人：九重町公民館 BASAREプロジェクト 本書への問い合わせ先：九重文化センター 大分県玖珠郡九重町
TEL: 0973-76-3888 Mail: bunka@town.kokonoe.gv.jp Facebook ページ：<https://www.facebook.com/basare.kokonoe/>
パンクナンバーハイ重町HPからご覧いただけます。本書は、無料で配布しております。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することを禁じます。Printed in Japan © Kokonoe Town.

QRコードから
九重町バサレページに
ジャンプします。



KOKONOE FreePaper 2018.9 vol.09